

大阪有機化学工業株式会社	
2025 年 11 月期 第 2 四半期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日 時	2025 年 7 月 11 日（金） 14：00～15：00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 （東京都中央区大手町 2-2-2；野村證券 アーバンネット大手町ビル） ＊電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2025 年 11 月期 第 2 四半期 決算説明会資料」 (2025 年 7 月 10 日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	電子材料事業の 2 Q のトレンドと今後について
A-1	表示材料は、1 Q で好調だったが 2 Q で若干足踏みしたという状況。 半導体材料は、昨年 3 Q 以降回復してきていたが、特にこの 2 Q で回復が鮮明になった。このうち ArF は大幅に回復してきたが、弊社における EUV は開発品も多く 1 Q も少なかったが、2 Q でも足踏みしている状況であった。 最先端のデータセンター向けが好調であることや、メモリの在庫調整が落ち着いたことから ArF がある程度出たのかと思う。 EUV は当初の期待値に比べれば成長が鈍っている感じはあるが、開発としての材料提供や改良について、お客様からの要望は全く衰えていないので、今後も成長は続くとみている。
Q-2	半導体材料が強かった背景と、今後の設備投資について
A-2	最先端を含め、ArF が使われる割合が増えているのではないと思う。 次の設備投資については、ArF、EUV を含めて今期からすでに検討を進めている。品質をどこまで上げるか、どういうプロセス設計にするかというところを検討しており、来年～再来年ごろの投資を考えている。
Q-3	化成品事業の下期に向けての見方は？
A-3	自動車塗料用はもともと急激には変動しにくく、下期も堅調に推移するとみている。 光学粘着剤用は、基本的には高いレベルで堅調に推移するとみている。

Q-4	アメリカの関税政策の影響は？
A-4	アメリカへの直接輸出は売上高の約5%程度。2Q時点で、受注が一時止められたケースはあったが結局出荷された。買い控えがあるとすればこれからかと思うので、影響が見えてくるのは3Q以降かと思う。
Q-5	新規事業について
A-5	CMP スラリー用添加剤は、お客様にサンプルを出して評価をいただいているところ。化粧品材料とポリマーの機能として類似性が高いものである。 ほかにも、電子材料の後工程材料も含めて期待している。
Q-6	半導体材料の業界再編について
A-6	2年前くらいはそういう機運があったようだが、今はトーンダウンしていると思う。当社としては、材料の特性からしても1社に偏ることはない。いろいろな材料を各レジストメーカーへ提供することで、お客様の競争力を高めていきたいと考えている。

以上